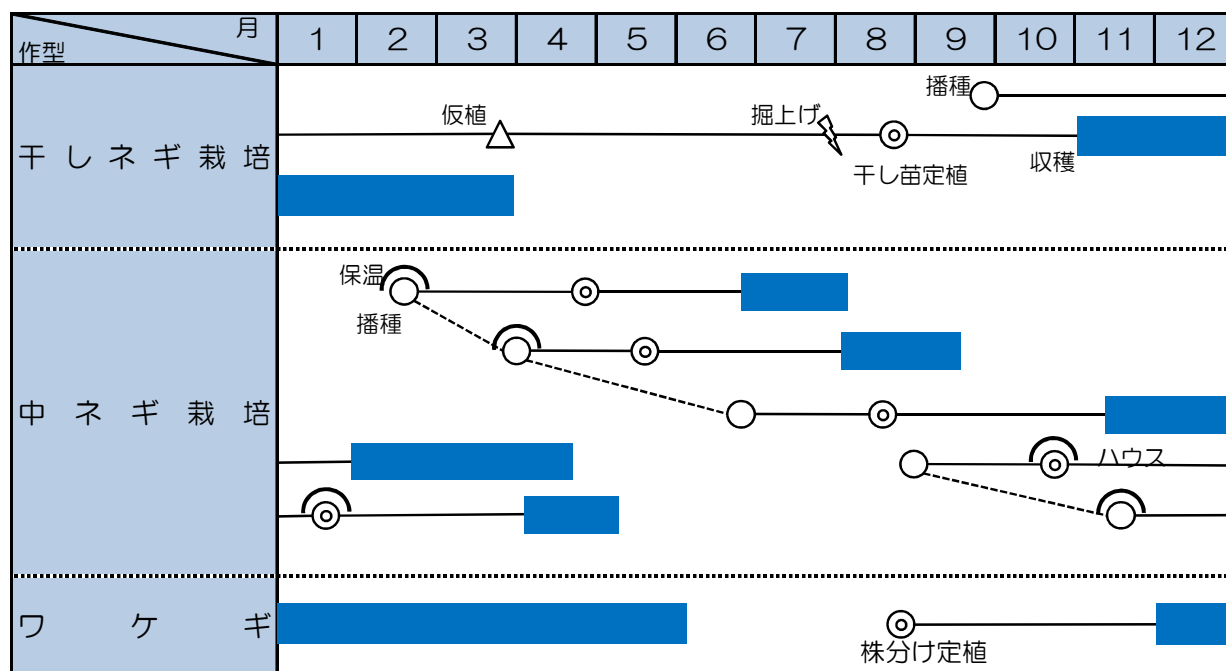


葉ネギ、ワケギ (ユリ科)

根が浅くて肥やけを起こしやすい野菜。
深植えすると生育が悪くなる。



1) 適地

ネギの根は、酸素を特に必要とするので、耕土が深く排水のよい軽い土が適します。ワケギはネギよりさらに砂質がかった土を好みます。

2) 品種

関西では、耕土が比較的浅くても栽培できる葉ネギが中心で、それも九条系の品種が多く栽培されています。また、変わりもののネギとしてヤグラネギがあります。このネギはネギ坊主の代わりに子ネギが葉の先に付くので、夏前にこれを定植すると夏ネギとして利用できます。ワケギには低温でよく生育する早生種と耐寒性に乏しい晩生種があります。



収穫期の葉ネギ

葉ネギ：(太ネギ) 九条太、浅黄系九条、ヤグラネギ

ワケギ：早生、晩生

3) 作り方

【苗床の準備】日当たりがよく、排水のよい場所を選びます。播種の1か月前に1㎡当たり堆肥2kgと苦土石灰100gを、1週間前に緩効性肥料40gを施用し、耕耘後に幅100cm、高さ15cmの苗床を作ります。ネギは肥やけに非常に弱いので、肥料は少な目にします。

【種まき】種子の寿命は非常に短く、室内に放置しておくと1年でだめになります。必ず新しい種子を利用するようにしましょう。苗床を平らにならしたら、10cm間隔で浅く播き溝をつけ、条播きにします。種子が隠れる程度に薄く覆土して軽く鎮圧したら、灌水を行います。発芽するまでは土を乾かさなことがポイントで、敷きワラをすると

よいでしょう。チェーンポットに播種する場合は、1穴に3～4粒ずつになるように播きます。

【育苗】苗が生え揃ったら、まず1cm間隔に間引き、草丈10cmになった頃3cm間隔に間引きます。2回目の間引き後、条間に低度化成肥料を1m²当たり20g追肥し、除草を兼ねて軽く中耕します。チェーンポット育苗では、間引きは行わず、播種3週間後より5日おきに液肥（市販のもの500倍希釈）を施用します。チェーンポットの灌水は、培土の表面が乾いた次の日の朝に行います。

【畑の準備】定植の1か月前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、BMようりん50gを施用し、耕耘します。定植の1週間前に緩効性肥料を1m²当たり150g施用し、幅135cmの畝を立てます。

【定植】畝上に深さ10cmほどの溝を25cm間隔で3条分掘り、株間15cmくらいで1か所に3～4本ずつ定植します。チェーンポット苗では、専用の定植機を用いるか、掘った溝に手でチェーンポットを広げて定植します。定植時は、根に軽く土をかける程度にし、活着後は数回に分けて根元に土が盛り上がるように土寄せを行います。定植後は十分に灌水し、土壌処理除草剤を散布します。月に1回くらいの間隔で、1m²当たり高度化成肥料30gを施用して肥切れしないように管理します。



チェーンポットによる苗の定植

干しネギ栽培では、冬を越した苗を3月下旬頃仮植します。4～5月にネギ坊主が発生したらすぐに摘み取ります。8月上旬に掘り起こして干し苗にし、8月下旬に2～3本ずつ株分けして定植します。

【ワケギ】ワケギには種子ができませんので、株分けで殖やします。夏に休眠しますので、5月に葉が倒れたあと抜き取り、風通しのよい所に吊しておきます。休眠が終わる8月下旬に株を2～3球ずつに割り、芽が出やすいように種球の上部を切り取ります。定植は種球の上部がわずかに見える程度に浅くします。ワケギは分球して横に広がり大株になりますので、株間はネギより広く、20cmくらいにします。

【収穫】出荷できる規格になれば、いつでも収穫できるのがネギ類の大きな特徴です。株ごと抜き取り、黄色い葉や折れた葉を整理したのち、株元の土を水で洗って落とします。

4) 病虫害防除

害虫では春から秋にかけてアザミウマ類が発生します。特に高温期には多発し、葉をカスリ状に白変させてしまうので商品価値が大きく低下します。秋口にはシロイチモジヨトウやハスモンヨトウが発生して葉を食害します。病害は、春から秋にさび病が出やすく、また、春や秋にはべと病が発生します。いずれも、早めの防除に努めてください。



アザミウマの食害痕